

令和5年度 地域ケア個別会議 実施概要

資料4

【令和6年3月末現在】

No	包括	性別	年齢	要介護認定	世帯	課題
1	あさくさ	男性	80歳	要介護1	独居	認知機能の低下により、金銭管理が難しくなっているが、本人が第三者の関与を必要としていない。また、親族はいるが支援を拒否している。
2		男性	86歳	要介護1	独居	ADLは自立しているが認知症があり、金銭管理が困難な状況。また、入浴をしておらず、近隣から悪臭等の苦情が入っているが、本人は親族への連絡を拒否している。
3	やなか	男性	79歳	要介護3	独居	LGBT、HIV陽性の認知症高齢者で、第三者の支援が必要な状態であるが、利用できるサービスが限られている。
4	くらまえ	女性	85歳	要支援1	独居	本人は介護保険サービスを利用するもすぐに辞めてしまう。近隣に住む家族が日常生活を支援しているが、認知症が進行し、本人の対応に苦慮することが増えている。
5	みのわ	男性	75歳	要介護2	独居	光熱費やマンションの管理費などの滞納がある。たびたび行方不明となり、警察に保護されたり、支援者が捜索する機会が増えている。
6		男性	75歳	要介護2	独居	脳梗塞にて入院し、リハビリが必要な状態であるが、介護保険サービスや見守り等の介入に対して拒否。親族や地域との交流もほとんどない。
7	まつがや	女性	98歳	要介護1	独居	通い入れたスーパーにセルフレジが導入された時にどうしてよいか戸惑い、買い物に行くことが億劫になった。独自の生活スタイルがあり、新しいものを取り入れる事が難しい。
8		男性	85歳	要介護1	独居	妻は入院中。認知症の診断がり、本人は妻が亡くなったと思込んでいる、また、近所の家を自分の家だと認識してしまうこともある。易怒性もあり、家族も対応に苦慮している。
9	ほうらい	女性	75歳	要介護4	同居 〔内縁の夫〕	介護や医療の介入が必要だが、内縁の夫の意向で介入することができない。内縁の夫も医療や介護を拒否している。
10		男性	87歳	要支援1	同居 〔妻〕	介護者である妻への暴言があり、その対応に妻や家族は疲弊している。一方で、本人、妻ともに一緒に生活することを望んでおり、暴言等がエスカレートする可能性がある。

★ 前回（令和5年度第2回）以降に報告するケース
それ以外のケースは3か月後のモニタリング結果やその後の状況を追記